

【長岡市通学路の安全対策（防災・安全）】評価の内容にかかる審議結果

1 成果指標の妥当性などについて

(1) 質疑

Q1 指標2（小学生の登下校時における交通事故件数）について

見込み値で評価をしていますが、もし、それまでに事故が発生してしまい、数値が変わった場合はどう対応しますか。

A1 年度末の数値を確認し、最終的な結果に基づき評価をして報告します。

Q2 指標2（小学生の登下校時における交通事故件数）について

交通事故件数が市内全ての通学路となれば、要対策箇所以外（事業実施とは関係の無い箇所）でも事故が起きる可能性があり、事業効果としての因果関係を説明できないのではないかと。

A2 当初指標を立てたときには、客観性を重視して登下校時交通事故件数の推計値に基づいて目標を設定したものです。

Q3 指標の参考（アンケート調査）について

実施効果把握のために行った、市内各小学校へのアンケートは学校職員の視点だけでなく、地域や保護者の意見は反映されているのか。

A3 あくまで小学校へのアンケートですが、日頃の町内会長・PTA・保護者との意見交換での意見が反映されていると考えています。

(2) 意見

ア PTA や地元と連携を取りながら教育委員会、道路管理者、警察等がそれぞれの立場から子供達の安全を考えていく取り組みはとても重要であり、この交通安全プログラムの仕組みが今後も継続され、実行性のあるものとなるよう期待している。

(3) 審議の内容

ア 指標1（対策完了率）の達成度「○」について・・・「○」で合意

イ 指標2（小学生の登下校時における交通事故件数）の達成度「○」について・・・「○」で合意 ※ただし平成30年度末の数値でフォローアップを行う。

2 今後の通学路の安全対策について

(1) 意見

ア 子供たちの状況や地域・道路・交通量等も変化していく中で、新たに対策が必要になる箇所は必ず出てくるので、学校・警察・道路管理者等が通学路の状況に関心を持ち続けることが大切になる。要対策箇所は年々少なくなっていくかもしれないが、新たに対策が必要な箇所は必ず出てくる。

イ 踏切や路肩を拡幅した箇所に、グリーンベルトを整備すれば、比較的小金をかけず効果を出せるのではないかと。

- ウ 地域での見守りも限界がある。防犯灯の設置に合わせ、防犯カメラの設置を進めていくことが必要ではないか。
- エ 地域によっては段差を解消しているところもあるが、一般的な歩道は車道から一段上がっている。バリアフリーについても合理的な整備を考えてほしい。
- オ ハード面を整備したところに、ソフト面（交通安全指導、見守り体制等）も重点的に対策することで、リスクを最小限にできると思うので、今後の対策に反映してほしい。